

岩手県工業技術研究推進会議 生産技術部会議事録	(実施日) 平成16年10月29日(金)
----------------------------	-------------------------

(テーマ名) 未利用木材を活用した緑化用環境資材の開発 (事前評価)

委員	質問・意見	回答
G委員	複合化の状況が見えない。	ポーラスコンクリートを型枠に打設する際に骨材を二つに分けて骨材と骨材の間に保水性ボードを挟みこむ。
	それが最適の方法であるか？	最小限の作業工数の増で効果が見込まれる複合化の対応を考えた。
D委員	ボードを作る手間が増えるのではないか？	ボード作成はポーラスコンクリートメーカーでは行わないので、手間にはならない。森林組合・チップ組合で製造を行い、更なる雇用創出と間伐材活用を考えた。
H委員	ポーラスコンクリートには植生の可能性の知見はあるのか？	可能である。
	ポーラスコンクリートの空隙・粒径はどれくらいか？	植生を考えた場合、空隙は21%～24%、粒径は20mm～40mm程度で植生が可能であるとされている。
E委員	護岸は強度が必要と思われるが、保水性ボードとポーラスコンクリートの接触面で剥離しないか？	打設時にボードが骨材と絡み強度に影響はないと思われる。さらに、ボードは骨材に包み込まれる形状になっているため剥離の心配はないと考える。
	研究項目に入れてはどうか？	研究項目に入れて検討を行う。
D委員	ポーラスコンクリートは現場打設を考えているのか？もし、その場合、保水性ボードを挟み込むのは不可能ではないか？	現場打設をとる工法もあるが、本研究においては現場打設は考えていない。今回の製品は、1m×2mなどのブロック状のものを工場で製作し、現場ではボルト等で連結する施工法を考えている。
F委員	バインダーに劣化ポリエチレンを使用するとあるが、化学物質の溶出の問題はないか？	現段階ではポリエチレンによる問題はないが、環境に配慮した製品として生分解性樹脂を用いたボードも検討することで、バイオマス資源の活用も検討する。
A委員	コンクリートというテーマで材料部会の研究員の研究と重なる部分があり、企業が違うということもあるだろうが、研究成果の情報を得ているのか？	詳細については情報を得ていない。今後、情報交換を行って進める。
B委員	保水性と透水性という相反する機能を複合化させる場合にどのように考えているのか？ 複合化の説明が不十分である。	ポーラスコンクリート全面をボードで覆うのではなく、1m四方のポーラスコンクリートであれば30cm四方のボードを4枚挟み込むなどして、保水性重視の部分と、透水性重視の部分に分けて機能化を図る予定である。
A委員	ポーラスコンクリートの凍結による破壊はないか？	連携機関の技術研究所で凍結融解試験を行うことになっている。